

## 学 位 論 文 要 旨

氏 名 井上 昌善

## 題 目 民主的な議論に基づく中学校社会科授業構成の方法に関する研究

本研究は、中学校社会科において民主的な議論を方法原理として取り入れた授業の構成原理を解明し、その原理に基づいて開発した具体的な単元を提示しようとするものである。中学校の社会科授業は、一般的には教師の一方的な説明を中心とする講義スタイルの授業が行われており、知識の暗記ばかりが求められるものとなっている。そのような実態を改善するために様々な授業構成論がこれまでも提案されてきたが、その多くは教師と生徒の関係から授業を捉え、教師の指導を中心に原理が構想されたものとなっている。授業という場が多数の生徒と一緒に学ぶものであるということを踏まえ、生徒同士のやり取りを中心に構想し、生徒の主体性や自主性を尊重した授業構成論が求められていると言える。本研究は、教育現場と学術研究のこのような状況をふまえた両者の課題に応えようとするものである。

研究を進めるにあたって、森分孝治や池野範男らの社会科授業構成論を考察し、いずれの社会科教育論においても議論が授業構成の中で重要な要素として位置付けられていることを確認したうえで、森分や池野とは異なり、政治学における民主主義論に注目し、民主的な議論の視点から授業構成論を構築しようとした。主に政治学者の田村哲樹に注目し、田村が論じている熟議民主主義の考え方を社会科授業構成論に取り入れることを目指して研究を進めた。その結果、熟議民主主義と、それに対抗する闘技民主主義の二つの民主主義論に基づいて授業構成論を構築することができた。

熟議民主主義に基づく議論は主張の根拠の反省を促すものであり、闘技民主主義に基づく議論は主張への同意の調達を促すものであると整理した。主張の根拠の反省とは、自己と他者の主張の根拠の比較をふまえ、他者の主張の理由を批判的に検討したうえで、両者の違いを明らかにしつつ他者の納得を得るように、自己の意見を振り返りよりのぞましいものへと修正していくことである。一方、主張への同意の調達とは、自己と他者の意見の比較をふまえ、他者の主張の理由を批判的に検討したうえで、両者の違いを保持しつつ他者の納得を得るように、他者の立場をも包摂する自己の意見を形成していくことである。主張の根拠の反省を原理とする社会科授業は、「問題の把握と自己の意見の形成」→「与えられた立場に基づいた主張の根拠の検討」→「主張の根拠の検討をふまえた自己の意見の再構成」→「主張の根拠の比較による他者と自己の違いの自覚化」という四段階によって構成される。そして、主張への同意の調達を原理とする社会科授業は、「問題に対する自己の意見の形成」→「自己と他者の意見の違いの認識」→「他者との違いを踏まえた自己の意見の吟味」という三段階によって構成される。また、教育内容編成については、議論に基づく社会科授業の教育内容として事象・出来事の解釈・評価をめぐるものと、制度・政策の決定に関するものがあることを、市民的資質の構造に基づいて明らかにした。そのうえで、次のような四つの授業類型を設定した。

- (1) 事象・出来事の解釈・評価に関する主張の根拠の反省を促す社会科授業
- (2) 制度・政策の決定に関する主張の根拠の反省を促す社会科授業
- (3) 事象出来事の解釈・評価に関する主張への同意の調達を促す社会科授業
- (4) 制度・政策の決定に関する主張への同意の調達を促す社会科授業

本研究では、それぞれについて、次のような単元を開発した。

- (1) 単元「明治政府の神戸事件の解決策について考えよう」
- (2) 単元「より望ましい開発のあり方について考えよう」及び単元「震災復興の問題について考えよう」
- (3) 単元「茶の変遷と社会の変容について考えよう」
- (4) 単元「井川防災プロジェクト—未来の防災倉庫の設置場所は？」

単元「明治政府の神戸事件の解決策について考えよう」では、神戸事件の解釈・評価をめぐる異なる立場から考察させる授業を開発した。単元「より望ましい開発のあり方について考えよう」では、アマゾン地域を持続可能な開発について、異なる主張をふまえて自分の考えを構築させた。単元「震災復興の問題について考えよう」では、神戸市のルミナリエ存続問題を取り上げて、税金の使途について異なる立場から検討させた。単元「茶の変遷と社会の変容について考えよう」は、茶道の成立過程の学習を通して、時代の変化をとらえさせようとした。単元「井川防災プロジェクト—未来の防災倉庫の設置場所は？」は、防災倉庫の設置場所について現状がどうなっているかを検討したうえで、より望ましい設置のための条件とは何か、それを踏まえてどこに設置すべきかを検討させた。

これらの単元開発を通して、主張の根拠の反省を促す社会科授業は、生徒に他者とは異なる自分の意見を形成することを促し、主張への同意の調達を促す社会科授業は、他者の意見を取りまとめ社会を形成する方向へ向かうということを明らかにした。